

第104回日本精神神経学会総会



若手精神科医の会で培ったもの

中川 敦夫 (慶應義塾大学医学部精神神経科学教室, 日本若手精神科医の会)

今年で6年目を迎える日本若手精神科医の会(以下 JYPO)は、全国各地から、専門性・指向性などが異なる若手精神科医同士が集い、各種研修会、多施設研究、国際活動などを行っている。JYPO 発足時の最も大きな命題の1つは、2002年 WPA 横浜大会ホスト国の若手精神科医として、海外から招待された100名ばかりの若い精神科医のフェローシップ・プログラムの運営の協力支援であった。当時、海外の精神科医との交流は、若手主体のものはほとんどなくほとんど手探り状態で準備がすすめられていった。その1つの企画として、今でも続いている英語でのプレゼンスキルを身につけることを目的としたワークショップ形式の合宿が開催され、厳しい英語漬けの生活であったが、その仲間が JYPO 設立メンバーとなった。WPA 横浜大会も、この準備の甲斐あってか、海外のフェローやファカリティとの交流が促進され、現在のアジア含めた海外の若手精神科

医の交流の礎となったと同時に、我々もやれば何か海外に向けて発信できるという自信を得た気がする。もう1つ JYPO が提供してくれたことは、国内の若手精神科医の横の交流である。精神医学が扱う大変広い領域の中において、未だ専門性の修得過程にある若手の精神科医はどうしても見方が狭くなりがちである。しかし、様々な教育・研修を受けている若手精神科医との交流を通じ、臨床・研究の見方が自分の研修施設のみで得られないものに触れたり、聞いたりすることでたいへん広がったように思う。

今回、演者は JYPO の6年を振り返りつつ JYPO 1期生の視点から、精神科後期研修医や若手精神科医の early career development に関する課題を議論すると同時に、若手精神科医に有益な情報提供の場となるように努めたい。尚、内容については十分倫理面に配慮して行うものとする。

(この論文は抄録集より転載しました)